

## 「La spécialité de Yuina」

花き装飾コース

### 1. はじめに

花と緑を通してより多くの人に幸せを届けられるフローリストになる。これは私の高校生時代からの夢だ。

幼い頃から祖父母や母の影響で花が好きのため、農業高校へと進学した。花について学ぶうちに、生花店で働きたいと考えるようになった。生活に彩りを与えるだけでなく、時には誰かの大切な想いを届けるお手伝いができる素晴らしい職業ではないかと思った。そんなフローリストに私もなりたいと感じた。高校卒業後に就職することも考えたが、花と緑についてもっと広く学びたかったことと、フローリストでもどんな仕事があるのかを知るために園芸アカデミーへ進学をした。

園芸アカデミーに入学後は主にフラワー装飾を中心に積極的に学びを深めてきた。授業やインターンシップを通して改めて生花店で就職したいと感じた。

そして就職活動の後、内定をいただくことができた。就職後に役立てることができるように、インターンシップで感じた技術不足とレパートリーの少なさを改善するために様々な印象の花束を制作しようと決めた。私はカフェが好きのため自分ならどんなメニューにするだろうと、オリジナルメニューを考案し、メニューをイメージしてコンセプトに合うように色や形を工夫して7つの花束を制作した。

更に表現力を磨くために、田上さんと共同で岐阜駅のアクティブGの3階のディスプレイの施工も行った。2人でコンセプトを考えて、先生にアドバイスをいただきながら施工を行った。

それらを、ゆいなの得意なおすすめ料理という意味を込めて「La spécialité de Yuina」と題して作品集としてまとめた。

### 2. 制作作品

(1) 「ストロベリータルト」



(2) 「ポッピングソーダ」



### (3) 「ラムレーズンマシュマロ」



### 3. おわりに

全体を通して全ての花材一つ一つに意味を持たせることが大切だと学んだ。どの花にどんな役割を持たせてどこに入れるのかがはっきりしていないと、上手くまとめることが難しい。その花材の特徴を理解して、どう生かせばいいのかわらなければならないと学んだことで、経験を積み重ねることの重要性を改めて実感した。どんな意味を持たせるかによって、凹凸のつけ方や配置が変わってくるため最初に考えるべきだと学んだ。

また、コンセプトを細かく考えることの重要性を知ることができた。相手に読み取ってもらえるようにするためには、自分がどれだけ詳しくイメージしているかが大切だと学んだ。どこで誰が何をしているのかを事細かに、どんな情景を思い描いてほしいかを具体的に考え、どう表現するかが重要だ。どれだけ作品にストーリー性を持たせることができるかが、作品の深みや厚みへとつながる。コンセプトを具体的に決めそれを表現するために、花材に意味を持たせることができればより良い作品を制作することができるかと学んだ。

そして、伝えることの難しさを知り、伝える力の必要性も改めて感じた。フローリストは、技術はもちろんお客様へどれだけ花について伝えることができるかも大切だと感じた。カタログやポップの作成、接客の時は花の特徴や魅力をどれだけ伝えられるかが大切である。そのため、花での表現力とともに言葉での表現力も磨く必要があると気付いた。

また、表現力はお客様に向けてだけでなく、一緒に働く人に向けても必要だと感じた。自分のイメージをより正確に伝える力は必要不可欠だと感じた。

原価については約2,500円から5,000円程度だった。販売価格にすると最低でも約5,000円から10,000円程度になる。作品を見るとその値段に見合った見た目になっていない、高いと感じる作品もあった。そのため、値段に見合った作品を制作する技術が足りていないことが分かった。ボリュームをうまく出せず、花材を多く使用してしまったことも原因の一つであると考えられる。

このように、卒業制作では様々なことを学ぶことができた。それと同時に花をうまく生かしてきれていないなどまだまだできていないことに気が付き経験不足を感じた。これからは卒業制作で学んだことを生かし、生花店で働きながら更に学びを深めていきたい。